

このカレンダーの収益金は、NPO法人みんなの夢の音楽隊を通じて、アフガニスタンの子どもたちのために役立てられます。

アフガニスタン チャリティ カレンダー 2008 10月1日発売！ AFGHANISTAN SUPPORT CALENDAR



日本語・英語・ベルシヤ語 3カ国語表記
A2変形版 縦560mm 横420mm フルカラー
定価：税込 **¥1,500** (本体：¥1,429)

「楽しい！」が育てたもの
夢を持って生きること

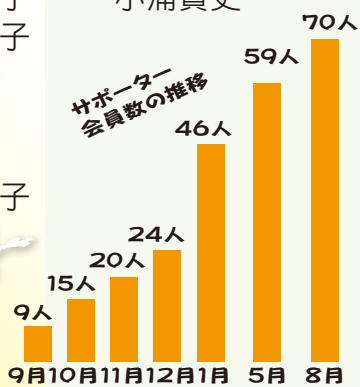


サポーターを募集しています！

会費は1口 300 円/月です。全額がアフガニスタン MMCC に送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年4回、現地の様子を伝える「MMCC ニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

2007年6月～2007年8月 ご入会のサポーター♪

川嶋庸子 佐々木孝夫
猪木原正雄 依田友子
鎌田佐斗子 小浦貴史
清水ユキ子
河合美喜
坂輪実穂
吉富俊子
吉富麻衣子
木原葉子



あなたもサポーター になりませんか！？

みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしての JAPAN-MMCC を継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、日本で見聞きすることはどれも残念なニュースばかりです。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではありません。戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しいものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさんの子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCC をはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしくお願いいたします。

MMCC ニュースの配布先を紹介してください♪このニュースを、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。

NPO法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。

私たちの活動に賛同し、協力してくださるメンバーを募集しています！

正会員	年会費 1 口 10,000 円	毎月 1 回ニュースをお届けします。活動を支えてください♪
賛助会員	年会費 1 口 3,000 円	毎月 1 回ニュースをお届けします。
団体賛助会員	年会費 1 口 10,000 円	共同企画事業を行います。会員割引の適用が受けられます。
MMCC サポーター	月会費 1 口 寄付 300 円	年4回 MMCC ニュースをお届けします。※全額現地送金。
※メールアドレス	1アカウント 3,150 円/年	

お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com
郵便振替 001 60-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCC ニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊
〒330-0053 さいたま市浦和区前地 2-11-2
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772
発行人 JAPAN-MMCC 代表：今川夏如
年4回発行 (2月5月8月11月)

Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

2007年8月15日 (Vol.3)

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける！



子どもの喜怒哀楽 を支える大人たち

今回で何度目になるのかわからないアフガニスタンへの渡航です。カブールに到着すると昨年来日したナワブが迎えにきてくれていた。今日はアフガン No.1 を決めるアートフェスティバルの3日目で、関係者は大忙し。アフガンの4つのテレビ局が3日間通して取材にきている。そんなすごい大会！？と思いきや、昨年から MMCC のカルチャーセンターで開催しているのだ。2日間で、アクロバットやジャグリングが終わっていて、今日は歌だ。それと3日間を通じた表彰式。演劇部門で2位になったサミラは号泣。テレビカメラを前に「こんなのはフェアじゃない！私が一番だ！」と。歌唱部門で1位になったのはヴァシラだった。ソナムと、新メンバーの女の子が入賞した。アクロバット部門は、アリシナとアハマッドが同率で1位。2位と3位をモマンドとヌーシャ。昨年の来日メンバーが上位を総なめにした。みんな飛び上がって喜んでた。また、入賞できずに泣いている子どもも何人も見かけた。舞台裏や、建物の中の部屋の隅っこで泣いている。みんなには見つからないように。それだけががんばったんだよな。後でスタッフ会議があった。先生たちは、そのことをみんな気づいていた。

日本の活動の状況をみんなに伝えた。支援金 1,000,419 円を手渡し、雑務をこなし夕食。翌日、がんばった子どもた



ちへのプレゼントで、パグマンにピクニックに行くことに。拉致されている韓国人の方々の安否が心配でならないが、おなじ場所でこういう空間もある。私たちの行動に、正義も悪もない。一緒に過ごすことの幸せを、ただひたすらに実行していくだけだ。ここにいる大人たちは、イラン生まれのデンマーク人。ジャーナリズムに失望して難民と一緒にカブールにやってきた女性、アルメニアとインドの血がまじったデンマーク人もいる。フルート奏者であり、ソ連と戦っていた元ムジャヒディン。ちょっと特殊な性格のアメリカ人クラウン。そしていたってふつうな私(?)。そのどれもが、子どもたちを笑わせるために真剣に話し合いをしている。ネタ仕込み？なみんな、なんでこんなところにいるんだい？

※2007年8月1日の日記抜粋

支援金 1,000,419 円 を届けて来ました！

2007 年版のカレンダーの収益金のうち MMCC に送られる分と、2006 年 9 月から始まった MMCC サポーターの会費を、2007 年 7 月分まで (未収金含む) の合計 1,000,419 円を手渡しました。

月々 300 円の会費で なにができるの？

2006 年 9 月の時点で 9 人 (2,700 円/月) でスタートしたサポーターですが、2007 年 7 月には 71 口 (21,300 円/月) のサポーターになりました。その 11 ヶ月の合計額が 149,100 円でした。では、次の 11 ヶ月で、仮にメンバーが 140 人になっていたとしたら、いくら支援金になるでしょう。1 ヶ月に約 7 人のサポーターが増える計算で、11 ヶ月後に 140 人だとすると、なんと、349,500 円になるんです。人数は、2 倍ですが支援金は 3 倍近くに増えます。ちなみに 140 人になると 1 ヶ月に 4 万円以上の支援金になるわけですが、これは、学校の先生 8 人を雇用することができる程の金額になるんです。8 人いたら、地方の小さな学校は運営できてしまいます。ひとりひとりが 300 円を送ることで、どんどん大きな力になっていきます。

ぜひ、今後ともみなさまの変わらぬご協力、また、お友達へのご紹介など、どうぞよろしくお願いいたします。



▲日本からの手紙をもらったアンソル

バーミヤンでワークショップ

MMCC のジュニアサーカスチームと、新しく加わったバーミヤンのスタッフを中心に、女性向けの「人権教育」を目的としたワークショップ。子どもたちを対象とした、地雷啓発のパフォーマンスと、アクロバット、絵画、演劇のワークショップを行いました。



▲荒野を 12 時間走る



▲石仏跡前



▲地雷啓発のための演劇プログラム。この地域は今も地雷が多い。



▲絵画のプログラム
地元の子どもたちへのワークショップ▼



▲石仏跡前での演技指導するのはモマンド（推定 12 歳）▼



継続的な努力の大切さ。がんばればなんだってできる！という気持ちを育てる演劇「パワフルキッズ」。



日本の思い出、いつまでも。



女の子たちの教室には、今でも来日したときの写真が飾ってあります。さわって汚さないように、わざわざビニールで覆ってありました。ホントに大切な思い出として子どもたちの心の中に残っているようです。今でも日本語の歌はぼっちり歌えます。「ともだちになるために」「リングリガリン」「手のひらを太陽に」など。子どもたちの間でも、日本語を使うのはひとつの流行りで、思わぬところから思わぬ言葉を投げかけられびっくりしました。たとえば？「カッコワルイ」とかですが。

MMCC ってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタン MMCC です。わたしたちはアフガニスタンで設立された NGO なので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議なご縁で、日本にたくさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかく読んでいただい



▲日本のトモダチから手紙をもらった

みんな元気？ ワタシトアナタ ハシアワセデス

2006 年の、MMCC 来日ツアーから約 1 年が経とうとしています。来日公演を共同で盛り上げよう！と集まった日本の子どもたちは、彼らが帰った後も活動を続けることになりました。歌やダンス、ジャグリングやアクロバットの練習をしています。しかし、そんな日本の子どもたちの耳に入ってくるアフガニスタンのニュースは、悲しい悪い知らせばかりです。爆弾テロのニュースが流れるたびに、アフガンの



▲女性のための人権教育の演劇。演じているのは、MMCC の子どもたちと、ワークショップに参加したバーミヤンの子どもたち。

アフガニスタンの歌に手の振りを付け一緒に歌っている。共同のステージ作りや手歌は、日本公演の経験から取り入れた新しい文化の創造ともいえる▼



▲日本に送る写真を撮影。場所取り合戦。

みんなは無事だろうか。そんな不安に駆られてしまいます。アフガンの子どもたちもまた、日本のトモダチを心配しています。○○ちゃんはいつも泣いてばかりいたけど、今は泣いたりしていない？とか、ちゃんと名前と一緒に覚えているんです。それぞれちょっとずつお兄ちゃんお姉ちゃんになりました。またいつか会える日を楽しみにしながら、同じこの地球の上で一緒に成長していくことでしょう。



▲アフガンにいるアンソルとおしゃべりをする日本の子どもたち。

移動サーカス（モバイルサーカス）

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう！」



アフガニスタン エンターテインメント・アート フェスティバル

毎年夏に開催される子どもフェスティバル。アフガニスタンの 4 つのテレビ局が夕方の時間になると一斉にテレビ放送するほどの注目をあつめる一大イベント。子どもたちはこの日に向かって、自分の得意とする歌や、演技、アクロバットや一輪車、ジャグリングなどを練習してきました。難民としてこの地にやってきたばかりの頃の彼らと、目標を持って成長しはじめた彼らの目は、見えるほど変わりました。子どもたちが思い切り力を発揮できる空間は、MMCC の子どもたちとおとなたちが一緒になって作っています。

一輪車 No. 1 決定戦！



▲水運びを競うナワブとアハマッド▲



数ある競技の中の一輪車部門で優勝したのはナワブ（推定 15 歳）でした。S 字カーブや、水をこぼさずにどれだけ運べるか、乗ったまま絵を描くなど、一輪車だけでもたくさんの科目があり、総合でナワブが優勝しました。もともとは控えめな少年だったナワブも、自分の得意とする分野で、今では小さな子どもたちに一輪車を教えたり、ステージの上で子どもたちに夢を届ける活動に参加しています。

子ども・カルチャーセンター

15 の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、叩いたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

ミニミニミニ サーカスも出場！



▲どうやら自信满满



▲4 歳～7 歳の競技



▲会場からは驚きの
◀声と大きな拍手が

おとな顔負けの技を披露する小さな子どもたち。身体が小さい分、大きく見せるために

手足を思い切り伸ばしてかっこよく見せる工夫もとりにれています。ほとんどは、10 歳前後のお兄さんたちを、見よう見まねで覚えた技ばかり。10 歳前後のメンバーも、小さな子どもたちのあまりのレベルの高さに驚き、むしろ焦りも感じたかもしれません。誰もが夢中で成長しているんですね。

アクロバット！

なんといっても一番盛り上がるのはアクロバット。華やかで迫力のあるアクロバットは、男の子たちのあこがれです。来日メンバーだったアリシナやヌーシャなどが上位を総なめにしました。



▲歌唱部門の表彰式



▲歌唱部門で準優勝したことに感動してうれし泣き。

◀演劇部門で準優勝のサミラはとても不満。このあと、テレビカメラに向かって泣きながら自分が絶対に優勝のはずだ！と抗議をしていた。彼女の努力はだれもが認めている。

子どももおとなも お互いに学び合う

負けて悔し涙を流す子どもたちの姿は、指導するおとなたちにも、良い影響を与えている。子どもをただの「子ども」としか見ていなかったようなおとなが、ひとりひとりの子どもたちにあった関わり方をするようになる。おとなが学ばされることもたくさんある。そして、MMCC のおとなたちは、地方の村々を周り、地方の先生たちへのティーチャートレーニングを行う。「オリジナル教材の作り方」「子どもの興味関心をどうやって引き出すか」「子どもの人権」「創造的な授業の作り方」それらすべてが、体当たりで子どもたちと向き合うおとなたちが、まさに体得していった成果です。こどももおとなも、やりたいこと、やれることを思い切りやろう！



▲先生たちからがんばった子どもたちへのプレゼントは、パグマンでピクニック

ワークショップ 実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中での役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。



ティーチャートレーニング（教員養成）

長い戦争で教育インフラの 85%が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもに興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCC の最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。

